

学校だより 特別号

京都市立醍醐小学校 校長 松下 智祥

アンケート【地域】



学校には、質問や相談しやすい雰囲気がある



子どもたちは、自分から進んであいさつをしている



学校だよりやホームページで学校の様子が伝わってくる



子どもたちは、交通ルールを守り、安全に気を付けて行動している



本校では、学校教育目標の実現を目指し、学校評価としてアンケートを行っています。アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。さて、3月に実施いたしましたアンケートにつきまして結果をまとめましたので、みなさまにお伝えいたします。本結果をもとにこれまでの教育活動を振り返り、本校の子どもたちはもちろんのこと、本校に関わりのある方も含めまして共に、みんなで成長できる醍醐小学校をめざしていきます。今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

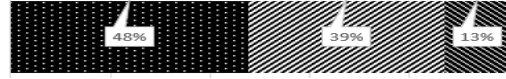
地域アンケートからは、学校の開かれた姿勢が高く評価されていることがわかります。「学校の様子が伝わる」、「相談しやすい雰囲気」を多くの方が肯定してくださっています。一方で、「進んであいさつをしている」に対しては否定的な回答も多く、交通ルールを守る意識の向上と合わせ、今後はより一層地域と連携した取組を進めていく必要があると考えます。

アンケート【児童】

目標に向かってがんばって取り組んでいる。



自分にはよいところがあり、今の自分が好きだ。



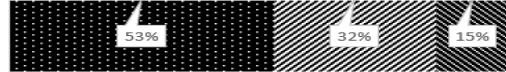
人が困っているときは進んで助けている。



「ありがとう」や「ごめんなさい」が伝えられる。



学校に行くのは楽しい。



困りごとや不安があるときに先生に相談できる。



自分から進んで体を動かしている。



自分の住んでいる「醍醐のまち」が好きだ。



将来の夢や目標(こんな人になりたい)できるようにしたいをもっている。



自分から学習に向かっている。



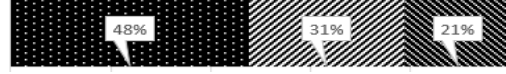
自分の考えを伝えることができる。



自分から進んで家庭学習をしている。



自分から進んで読書をしている。



自分から進んであいさつをしている。



先生は私の良いところを認めてくれている。



アンケート【保護者】

学校は、よりよい教育活動に向けて努力していると思う。



自分は、子どもたちにその子自身のよさを積極的に伝えられている。



自分は、子どもが自分や人を大切にできるよう働きかけている。



自分は、子どもたちに時や場に応じて、「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えられている。



子どもは、楽しく学校に通うことができる。



自分は、子どもたちの相談に乗れている。



わが子が、自分から進んで体を動かすような言葉がけをしたり、機会をもったりしている。



自分は、地域や社会の活動に参加できている。



わが子が、本をよく読むように声をかけたり、本をすすめたりしている。



「自分や人を大切にする(98%)」や「挨拶や謝罪(96%)」など、ご家庭での温かい心の教育が本校の大きな強みです。学校への肯定的な評価も93%と高く、良好な関係が築けています。一方、「家庭での読書の推奨」や「保護者の地域活動への参加」には課題が見られるため、今後は学校と家庭がさらに連携し、子どもたちの学びをサポートしていく必要があります。

アンケート【教職員】

自分は、学校教育目標の実現のために努力していると思う。



自分は、子どもたちにその子自身のよさを積極的に伝えられている。



自分は、子どもが自分や人を大切にできるよう働きかけている。



自分は、子どもたちに時や場に応じて、「ありがとう」や「ごめんなさい」を伝えられている。



自分は、子どもたちが楽しく学校に通うことができるように働きかけている。



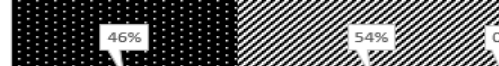
自分は、子どもたちの相談に乗れている。



自分は、子どもたちが進んで体を動かすような言葉がけをしたり、機会をもったりしている。



自分は、家庭や地域との連携を大切にしている。



自分は、子どもたちの読書習慣が定着するように働きかけている。



自分は、自分から子どもたちにあいさつできている。



教職員アンケートからは、子どもたちへの温かい関わりが明確に表れています。「『ありがとう』や『ごめんなさい』を伝える」や「自分や人を大切にできる働きかけ」は肯定的な回答が100%であり、心の教育に強い自信を持っています。一方で、「読書習慣の定着」や「体を動かす働きかけ」に対して「そう思う」と強く肯定した割合が低いため、今後はこれらの活動に対する具体的な仕組みづくりを組織全体で進めていきたいと考えます。

グラフの見方

質問項目



そう思う

だいたいそう思う

あまり

そう思わない

本年度の児童アンケート結果から、全体的な傾向として、他者への思いやりや将来への意欲といった「心の育ち」に関する項目で、高い肯定率を示しています。「『ありがとう』や『ごめんなさい』が伝えられる(96%)」、「人が困っているときは進んで助けている(95%)」と、人として最も基礎となる思いやりの心が集団に深く根付いています。また、「自分の住んでいる『醍醐のまち』が好きだ」という項目も94%と高く、学校だけでなく、地域やご家庭の温かい見守りの中で、子どもたちが確かな安心感と所属感を育てている証拠と言えます。一方で、次年度に向けた教育活動の「伸びしろ」も見えてきました。「困りごとや不安があるときに先生に相談できる」に対して、否定的な回答が25%と他の項目よりやや高くなっています。子どもたちの日々の小さな変化を見逃さない環境整備が必要です。また、「自分から進んで家庭学習をしている(肯定率78%)」「自分から進んで読書をしている(同79%)」といった「主体的な学習習慣」の定着についても、学校全体でのさらなる支援の工夫が求められます。

読書の魅力は・・・



- いろいろな人と出会えます。
- いろいろな場所に行けます。
- いろいろな気持ちがわかります。

- いろいろな体験ができます。
- いろいろな時代に行けます。



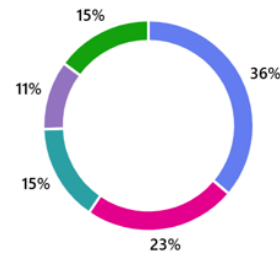
まずは、周りの大人が、読書を楽しむ姿を見せたり、自分が好きな本を読み聞かせしたりするところから

月に一回の「読み聞かせ DAY」 いろいろな学年の教室で、お気に入りの本を読み聞かせします。



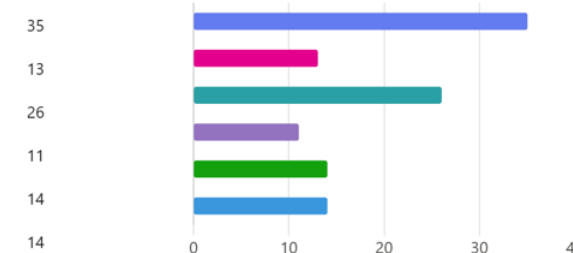
11. お子様の1日の過ごし方について、感覚として最も近いものはどれですか。

- ショート動画やSNSを見ている時間が長い 17
- どちらかといえば、ショート動画やSNSを見る時間が長い 11
- ショート動画やSNSと、読書の時間は同じくらい 7
- どちらかといえば、本やマンガを読んでいる時間が長い 5
- 本やマンガを読んでいる時間が長い（※SNSをまだ利用していない場合も含む） 7



12. デジタル社会の今だからこそ、読書を通して「お子様に身につけてほしい力」は何ですか？（複数選択可）

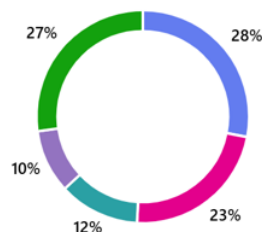
- 【想像する力】文字だけで、頭の中に景色や相手の気持ちを思い描く力
- 【集中する力】スマホの通知に邪魔されず、一つの世界にどっぷりと浸かる力
- 【考える力】「これって本当かな？」と、一度立ち止まって深く考える力
- 【体験する力】自分とは違う人の人生を、物語の中で体験する力
- 【言葉の力】SNSの短い言葉だけでなく、深く豊かな表現を知る力
- 【心の休憩】情報を遮断して、自分の心と静かに向き合う時間



6年生へのプレゼントとして「読書記録カード」を用意しました。1年生から今までに出会った本を振り返りながら、読書の軌跡をたどることができます。

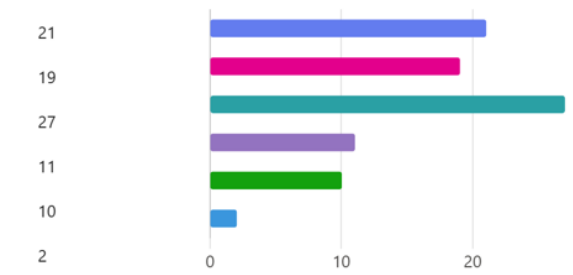
13. ご家庭での「読書環境」について、あてはまるものを選んでください（複数選択可）。

- 家には、子どもが手に取りやすい場所に本がある 32
- 子どもの興味や成長に合わせて、本を選んでいる 26
- 家族（大人）が読書を楽しんでいる姿を見せている 14
- 読み聞かせをしたり、本について話したりする機会がある 11
- 図書館や本屋に行く機会がある 31



14. 学校の読書活動に対して、期待することを教えてください（複数選択可）。

- おすすめの本を、学年や興味に応じてもっと紹介してほしい 21
- 調べ学習など、本を使って探究する授業を増やしてほしい 19
- 朝読書の継続など、静かに本に向かう時間を確保してほしい 27
- 作家の講演会や読み聞かせなど、本に親しむイベントを行ってほしい 11
- 家庭と連携した読書の取組（おすすめ本の共有など）を進めてほしい 10
- 電子書籍やデジタルを活用した読書も取り入れてほしい 2



保護者の方 地域の方から

- 読書を通して、心を豊かにし、人として大切なことを学んでほしいと考えています。
- ユーチューブやTVゲームなど、手軽で刺激的な娯楽があふれる現代において、子どもたちに読書の魅力を伝えることは重要である一方、難しさも感じています。
- 読書の方法が多様化する中で、書店が減少している現状には、時代の変化とともに寂しさも覚えます。